

<p>1. 主催者・共催者名 独立行政法人国際協力機構（JICA） 環境省</p>
<p>2. タイトル アジアにおける国家 GHG インベントリ策定・報告と我が国の支援</p>
<p>3. 目的・概要</p> <p>国連気候変動枠組条約（UNFCCC）の締約国は、温室効果ガス（GHG）の排出・吸収量の目録（GHG インベントリ）を作成・報告する義務を負っている。GHG インベントリは国レベルでの過去の GHG 排出・吸収量を包括的に把握するもので、緩和策を検討する上で重要な基礎データといえる。本セッションでは、日本がアジアで展開する GHG インベントリ策定に係る支援と途上国におけるその策定状況を紹介するとともに、GHG インベントリ体制の整備の現状と課題について議論し、国別の適切な緩和行動（NAMA）及びその測定・報告・検証（MRV）の交渉の一助となることを目的に開催する。</p>
<p>4. アジェンダ</p> <p>進行役：小野貴子氏／独立行政法人国立環境研究所温室効果ガスインベントリーオフィス</p> <p>13:00-13:10 開会の挨拶（白石順一氏／環境省地球環境審議官）</p> <p>13:10-13:15 進行役によるガイダンス（小野氏）</p> <p>13:15-13:30 ベトナムにおける国家 GHG インベントリの策定・報告（Nguyen Khac Hieu 氏／ベトナム天然資源環境省気象水文気候変動局）</p> <p>13:30-13:45 ベトナムおよびインドネシアにおける国家 GHG インベントリの策定・報告に対する我が国の支援（榎 剛史／JICA 専門家・三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング）</p> <p>13:45-14:00 途上国における国家 GHG インベントリに対する米国の支援（Bill Irving 氏／米国環境保護庁大気プログラムオフィス気候変動局気候変動政策課チーフ）</p> <p>14:00-14:15 COP19 へのインプリケーション（田辺清人氏／財団法人地球環境戦略研究機関（IGES）主任研究員）</p> <p>14:15-14:30 質疑応答</p> <p>14:30 ラップアップおよび閉会</p>

5. 発表・議事の概要

開会の挨拶として、白石氏（環境省）は、日本環境省および JICA が国家 GHG インベントリ策定・報告に係る支援を実施している点について触れ、今回のイベントにおいて GHG インベントリ体制の整備の現状と課題について議論されることを期待すると述べた。

Hieu 氏（ベトナム）からベトナムにおける状況、榎氏からはベトナム・インドネシアのうち後者における状況を中心に発表が行われ、両国における国家 GHG インベントリ策定の準備状況にくわえ、インベントリ策定に係る体制整備の現状の共通する課題や差異が明らかにされた。国家 GHG インベントリ策定のために必要な体制整備、省庁間の調整、体制の維持に必要な予算確保、有効なデータの整備、データの共有等の課題について認識が共有された。Irving 氏からは米国による途上国における国家 GHG インベントリ策定・報告の支援状況について共有され、それぞれの途上国による状況の差異を踏まえた **flexibility** の重要性や恒常的にインベントリ策定に係る業務に従事する担当者の必要性等を指摘した。田辺氏からは今後の BUR の策定を念頭に持続可能な体制整備の重要性と途上国が相互学習することの重要性について述べた。

6. 会場写真

